

アジア地域ビジネス論A		講義	教授 大西 一成
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門 選択科目	科目ナンバリング	23200201

1. 授業のねらい・概要

日々躍進するアジアビジネスを特徴づけるものを抽出し、今後の可能性と課題についてより具体的に取り上げる。より具体的には、アジア各国が成し遂げてきたビジネス具体的に上げその特異点に着目する。アジアビジネスのこれまでの台頭はもとより、今後の可能性と基本的な課題についても取り上げる。

2. 授業の進め方

各項目について、具体的かつ理論的にアプローチする。そのため、中心的な産業におけるビジネスの具体的事例をできるだけ多く取り上げていく。説明については、配布資料の講読、板書、自筆ノートの作成等を重視する。

3. 授業計画

1. イントロダクション（授業の進め方と授業の概説）	9. 東南アジアにおける新たなビジネスの動き
2. 経営学の視点から①（基本的な論文を中心に）	10. アジア諸国における製造業の動き
3. 経営学の視点から②（経営者の視点を中心に）	11. アジアにおける資金調達における変化と課題
4. アジアにおけるグローバルビジネスの新展開	12. アジアの金融問題（先進国の金融政策を踏まえて）
5. アジアの新たなビジネス展開①（AI・半導体を中心に）	13. アジア地域のサービス産業の課題と今後
6. アジアの新たなビジネス展開②（EVを中心に）	14. アジア地域におけるビジネスが抱える固有の課題
7. 経済発展に向けた産業政策とビジネスの変化	15. アジア地域ビジネスの基本的課題の整理と総括
8. 南アジアにおける新たなビジネス（インドを中心に）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

宿題等によって、予習あるいは復習を促す。こうしたことから予習、復習ともに日々1～2時間程度は必要であろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個人的に公表する。学期中の試験、レポート等については、解説とともに返却したい。宿題については、ミニッツ・ペーパーによる提出を求めるとともに、その解説は次の授業冒頭で行う。

6. 授業における学修の到達目標

アジア地域のビジネスを通して、経済発展に必要なビジネスモデルを実践的学修する。これによって経済学の視点を有するビジネスマンとしての基礎力を自らのものにすることを到達目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

授業への参加状況及び課題提出等（30%）、学期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

テキストは特に限定しない。参考文献は、遠藤環・伊藤亜聖・大泉啓一郎・後藤健太[編]（2018）『現代アジア経済論 「アジアの世紀」を学ぶ』（有斐閣ブックス、2700円+税）

9. 受講上の留意事項

2年次後期の「アジア地域ビジネス論B」と合わせて履修することが望ましい。また、1年次の「グローバル化と国際社会A・B」及び1年次後期の「日本とアジアの経済」についても履修しておくことが望ましい。今日のアジア地域ビジネスの動きについては、経済専門紙を日々講読することが重要であるとする。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。金融機関における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。